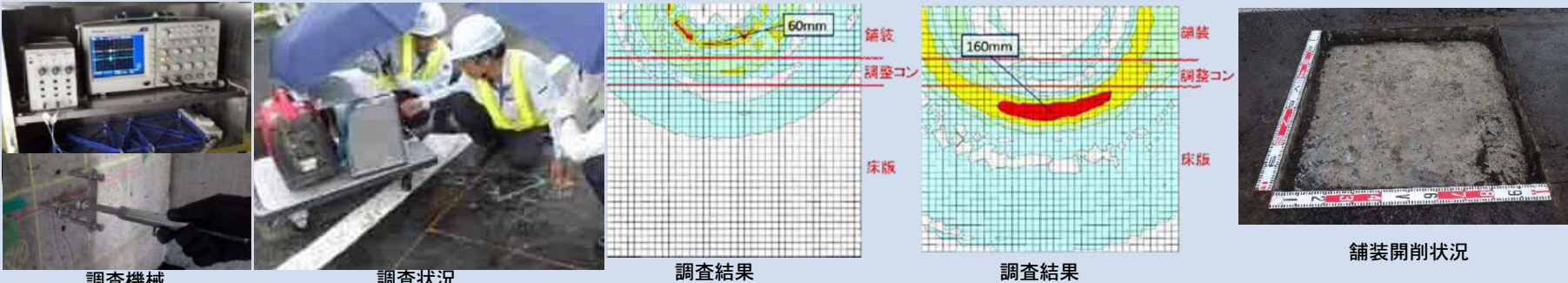


技術名	コンクリート内部欠陥の非破壊調査技術 -FEITSA(SIBIE法)による調査-	
開発者	株式会社 富士ピー・エス	
技術概要	コンクリート構造物の内部結果の有無及びその弾性波を用いて非破計測、調査結果を画像化する。	
試行状況	 <p>調査機械 調査状況 調査結果 調査結果 舗装開削状況</p>	
	従来技術(舗装開削による調査)	新技術
精度	舗装を開削し床版状況について目視や打音検査により状況を確認。	弾性波(1箇所5回測定)の結果を画像化を行うことから定量的な結果が得られる。現地調査では目視で確認できないコンクリート内部の状況についても把握が可能
効率性	測定面積: 1橋(開削2箇所)あたり 約1.5日(開削90分、調査30分、復旧90分、報告書とりまとめ1日)	測点面積: 1橋(開削2箇所)あたり 約6時間(調査1箇所1時間×2、解析1箇所2時間×2)
コスト	調査の他、舗装切断・取り壊し・復旧費、交通誘導員の配置が必要。1橋あたり約2百万円	調査費のほか舗装の切断・取り壊し・復旧費が不用、交通誘導員の配置が必要。1橋あたり約1百万円
評価	<p>舗装開削をしなくても、床版に異状があるかどうか判定することが可能であるが、どのような損傷があるかまでは判別はできない。舗装開削調査に先立ち当該調査を実施することで、調査の効率性の向上が期待できる。</p> <p>今回は1橋において試行を行ったものであり、実際に運用していくためにはデータを蓄積が必要であり、現場試行を継続し実施する。</p>	